

認定看護師の役割と活動

第8回 『クリティカルケア認定看護師』

市立函館病院 かわせ河瀬 こうすけ亨哉 様

令和3年9月掲載

『函病救命救急センターです。

負傷者3名のうち1名をドクターヘリで搬送中』

『ストレッチャーに移すよ1・2・3！

点滴を取って急速輸液を開始して』

『32フレンチの胸腔ドレーンとメスとペアン、

ドレーンバッグを準備して』

『心室細動だ！150ジュールでショックします、離れて！』

『血圧80，脈拍140，痙攣だ！ホリゾンを準備して！

アンビュー変わります』

.....

ドラマの世界みたいですが、道南で唯一の市立函館病院救命救急センター（以下、センター）内で交わされている日常の一コマです。

センターはICU（集中治療室）・ECU（救命病棟）・ER（救急外来）

の3部署に分かれていて、看護師総数は約 100 名が在籍し、認定看護師は各部門に 5 名が所属しています。私たちクリティカルケア認定看護師の役割は、“重症な患者さんに対する急性期における看護”と定義され、病院の内外において、患者さんの命の重要な局面を支えています。

【クリティカルケア認定看護師としての活動】

●コロナ禍における救命救急センター内の体制づくり



近年、世界中で猛威を振うコロナウイルス患者の対応でも、センターは地域で唯一の感染症指定医療機関として、人工呼吸管理や体外式膜型人工肺“ECMO（エクモ）”を使用した重症患者の対応を主に担っています。

コロナの流行がはじまった当初、救急外来でも誰がコロナ患者なのか分からない中での対応に、スタッフは不安を募らせていました。しかし、コロナ患者の対応マニュアルはどの学会でも作られておらず、病院内も会議が禁止されるなど、まさに八方塞がりの状況でした。そこで、クリティカルケア認定看護師が中心となって、休日にセンター内の看護師長らとオンライン会議を開催し情報共有しながら問題点を明らかにしました。その後、医師や感染管理認定看護師等と相談し、センター内での

統一したマニュアルを整備して、各部署の具体的な対応策を講じました。例えば、気管挿管（人工呼吸の管）の方法や患者の衣服の消毒、病室掃除や患者搬送の経路などをまとめ、それらの模範手技の動画を撮影・編集し、院内のパソコンで掲示しました。更にセンター内の看護師へ実技指導も行いながら、不安の軽減と手技の周知に努めました。その後も患者の受け入れをしながら、現在もスタッフの負担を軽減するため対応策の改善をしています。

●院外の救急・災害現場へ医療スタッフを派遣

次に院外では、古くは 1993 年に奥尻で発生した北海道南西沖地震や 2011 年の東日本大震災の災害現場へ医師や看護師の医療スタッフの派遣を行ってきました。それが更に進化したのは 2015 年に運航を開始した道南ドクターヘリです。

ドクターヘリは、救急医療用の医療機器を装備したヘリコプターで、けがをした外傷患者や心臓疾患、脳卒中や小児など、ありとあらゆる救急患者の対応を消防からの通報で対応します。センターを基地病院として、函館市内の 14 の二次救急病院の医師と看護師が輪番で対応し、年間約 400 件の出動を担っています。ドクターヘリ導入前は奥尻島からの救急患者搬送に定期運航フェリーや救急車を使い半日以上を要して

いました。導入後は 30 分程で函館の病院へと搬送できる様になりました。ドクターヘリで救急現場に医師と看護師が到着し、その時点から治療が開始されることで、一人でも多くの患者さんを救命でき、地域の医療格差も縮小するなどの成果を積み重ねています。



●ドクターヘリの組織体制としてフライトナース部会を設置

通常はドクターヘリに搭乗する看護師は、基地病院のセンターに所属する看護師から選出された 10 名程で構成されています。しかし、当ドクターヘリでは、前述した 14 病院から総勢 35 名のフライトナース（うちクリティカルケア認定看護師は 8 名）で構成され、病院が異なるとその対応にもバラつきが出てしまいます。そのバラつきを減らし、一定のルールのもとに出動任務が遂行できるように周知・教育をすすめるため、フライトナース部会を発足しました。基地病院は医師と看護師が同じ病院のスタッフが搭乗しますが、それ以外は医師と看護師が別々の病院からきて初対面同士のクルーになることもあり、現場作業に支障なく情報共有を図る必要があります。運航を開始してからしばらくは、必ずしも円滑な共同作業が行われておらず、現場で戸惑っているといった意見を反映させるため、センター長や各部門と協議し就航から 2 年

目の 2017 年に部会の発足に至りました。初代の部会長には私が就任し、部会の目標として①医療安全 ②事例検討 ③情報共有を 3 つの柱として掲げ、それぞれのポストにクリティカルケア認定看護師を配置し、役割の中心を担ってもらいました。単なる勉強会の企画だけでなく、スキルを磨き現場でフライトナースが即応性の高い活動ができるように教育訓練を担うべく、シミュレーショントレーニングなどを年 2 回定期的に開催するなど、個々の経験を補いながらも自立を目指した組織体制づくりを目指しています。

この度、ご紹介させて頂きましたクリティカルケア認定看護師の活動は、患者さんの命を救うため、常に時代に即した知識・技術の研鑽が求められます。個々の能力を高めるのはもちろんですが、その能力をセンター看護師へと教育しながら還元し、センター内の質向上を図っています。今後もドクターヘリで築かれた地域とのネットワークによって、センター内の技術を地域全体へと還元できる様に、組織を超えた「オール道南」による地域の救急医療を担っていきたいと考えています。

●現在、函館市内では下記の病院に在職しています●

市立函館病院・函館中央病院・函館五稜郭病院・共愛会病院